

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	内包的文脈の諸相、意味・行為・信念		
英文授業科目名	Varieties of Intensional contexts -meaning, action & belief-		
開講年度	2006年度	開講年次	3、4年次
開講学期	6、8学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	武笠 行雄		
居室	東1-804		

公開E-Mail	授業関連Webページ
mukasa@bunka.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
(a) 主題：言語哲学の基礎文献の講読
(b) 達成目標：20世紀の言語哲学とそれ以前の手楽学との相違について理解を深める。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
哲学B

<b>【教科書等】</b>
なし。講読資料はコピーで配布します。

<b>【授業内容とその進め方】</b>
(a) 授業内容
第1回：ガイダンス（第1回レポート課題）

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

第2～13回：イアン・ハッキング『言語はなぜ哲学の問題となるのか』の一部の講読

第14：まとめ（第2回レポート課題）

(b) 授業の進め方：セミナー形式を採りながら、講義を適宜併用して進める。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

成績評価 毎回の出席点100%

(b) 評価基準：

最低達成基準：70%以上の出席を評価され（セミナーに積極的に参加）、かつ、第1回および第2回レポートが受理されていること。

### 【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、メールで事前に予約を取ること。

### 【学生へのメッセージ】

本学の他の少人数セミナー科目と同じく、蛸壺型の知識の習得は求めない。人間の日常的な在り方と常識についての鋭い分析力を持つ学生諸君には容易なセミナーとなろう。

### 【その他】

履修希望学生が30名を越える場合には、セミナーを維持するために第1回レポートの内容に基づいて履修制限を行うことがある。